

報道機関各位

トマト栽培における環境に優しい害虫防除法に関する検討会を開催します ～天敵昆虫タバコカスミカメによる重要害虫コナジラミ類の防除～

トマト栽培で問題となるコナジラミ類※1は、ウイルス病※2を媒介するなど、収量や品質に大きな被害を与える害虫であり、多くの化学農薬に対して抵抗性が発達しているため、防除が非常に困難になっています。

茨城県農業総合センター園芸研究所では、コナジラミ類の天敵昆虫であるタバコカスミカメ※3を活用した、トマト栽培における環境に優しい防除法の開発に取り組んでいます。

このたび、このタバコカスミカメについて、(国研)農研機構の研究者から特徴等を紹介いただくとともに、当所での研究成果を紹介し、生産者等との意見交換を行うこととしました。

つきましては是非、ご取材して頂きたい、ご案内いたします。

※1～3については、2枚目の参考資料を参照



写真

上：害虫タバココナジラミ
下：天敵タバコカスミカメ
※どちらもスケールは約1mm

1 日時

令和5年9月29日(金) 13:30～16:00(受付開始 13:15～)

2 場所

茨城県農業総合センター園芸研究所 大会議室およびほ場
受付場所：園芸研究所 1階ロビー(正面玄関から入って正面)
〒319-0292 茨城県笠間市安居3165-1

3 参集範囲

県内トマト生産者、茨城県農業協同組合中央会、全農茨城県本部、
公益社団法人茨城県農林振興公社、県関係機関

4 内容

(1) 室内およびほ場検討(13:30～15:30)

【室内検討】

タバコカスミカメの特徴と防除上の留意点、県内外での本天敵による防除事例等
(国研)農研機構 植物防疫研究部門 生物的病害虫防除グループ 上級研究員 安部 順一朗氏

【室内およびほ場検討】

抑制トマト栽培におけるタバコカスミカメの効果的な放飼方法について

茨城県農業総合センター園芸研究所 病虫研究室 主任研究員 佐藤 信輔

(2) 総合討議(15:30～16:00)

タバコカスミカメの効果的な使用方法の普及に向けた今後の課題、質疑応答 等

☆当日は、ほ場検討も行うことから、暑熱対策の上、汚れてもよい履物・服装でお越し下さい。
☆荒天の場合はほ場検討を中止とすることもあるので、あらかじめご了承ください。

【問合せ先】

茨城県農業総合センター園芸研究所

担当：研究調整監 寺門 巖

TEL:0299-45-8340

FAX:0299-48-2545

E-mail:i.terakado@pref.ibaraki.lg.jp

※1 コナジラミ類について

コナジラミ類は、成虫でも体長が約0.8mm～1.0mmと微小な害虫で、植物の汁液を吸って生活します。世界で1,550種類以上発見されていますが、トマト栽培で主に問題となるのはタバココナジラミやオンシツコナジラミの2種類です。ウイルスに感染した株の汁液を吸ったコナジラミ類が、健全な株の汁液を吸うと、その株がウイルスに感染します。

※2 ウイルス病について

コナジラミ類が媒介する主要なウイルスとして、トマト黄化葉巻ウイルスとトマト退緑ウイルスがあります。ウイルスに感染した株を治療できる薬剤が無いため、発生拡大を防ぐためには、発病株の抜き取りとウイルスを媒介するコナジラミ類の徹底した防除が重要となります。

トマト黄化葉巻ウイルスについては、当研究所と民間企業で共同開発したキットで感染の有無について簡易・迅速に判定し、本病のまん延防止に活用できます。



トマト黄化葉巻ウイルスに感染し、先端が黄化、萎縮した株



トマト退緑ウイルスに感染し、全体が黄化した株

※3 タバコカスミカメについて

タバコカスミカメは、成虫の体長が約3～3.5mmのカメムシ類の一種です。雑食性でコナジラミ類などの害虫を大量に捕食します。西日本では、野外に多く生息するため、採集して防除に利用できます。一方、東日本では生息数が少ないため、生物農薬として購入して、防除に利用します。